

ベクトルと幾何のつながりは、有向線分の実数倍や和・差という演算と図形のリンクももちろん大切だが、内積といわれるものが大変重要で、物理との関係も深い。

#### 正射影

3点O, A, Bがあったとき、Bから直線OAに垂線BHをひく。 $\vec{OH}$ を $\vec{OB}$ の $\vec{OA}$ への正射影ベクトルという。

例 (内容を理解するために、必ず確かめるべきである。)

OA=4, OB=6,  $\angle AOB = 60^\circ$  のとき、

$\vec{OB}$ の $\vec{OA}$ への正射影ベクトルの大きさは3である。

$\vec{OA}$ の $\vec{OB}$ への正射影ベクトルの大きさは2である。

#### ベクトルの内積

2つのベクトル $\vec{a}, \vec{b}$ に対して、

$\vec{a} = \vec{OA}, \vec{b} = \vec{OB}$ となるように、3点O, A, Bをとる。

$\vec{OA}$ の大きさと、 $\vec{OB}$ の $\vec{OA}$ への正射影ベクトルの大きさの積を、

$\vec{a}$ と $\vec{b}$ の内積といい、 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ と記す。

すなわち、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$

ここで、 $\theta$ は $\vec{a}$ と $\vec{b}$ のなす角で $\angle BOA$ のことである。

定義より直ちに、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{a}, (k\vec{a}) \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot (k\vec{b}) = k(\vec{a} \cdot \vec{b})$

さらに、直ちに、

#### ベクトルの垂直条件

零ベクトルでない、2つのベクトル $\vec{a}, \vec{b}$ に対して、

2つのベクトルが垂直であるならば、内積は0である。

また、垂直でなければ内積は0にならない。

どうやら、内積は2つのベクトルのなす角に近い考えのようだ。実際、

$\vec{a} \cdot \vec{b} > 0 \iff \vec{a}$ と $\vec{b}$ のなす角は鋭角である。

$\vec{a} \cdot \vec{b} < 0 \iff \vec{a}$ と $\vec{b}$ のなす角は鈍角である。

一般に

#### ベクトルのなす角

零ベクトルでない、2つのベクトル $\vec{a}, \vec{b}$ に対して、

2つのベクトルのなす角 $\theta$ について、 $\cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|}$

例 数学の内容を理解したかったら，例は確実に辿ってみよう。

1 辺の長さが  $l$  である正三角形 OAB において，

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \frac{1}{2}l^2, \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{AB} = -\frac{1}{2}l^2$$

さらに，辺 AB の中点を M とすると， $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OM} = \overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OM} = \frac{3}{4}l^2$ ， $\overrightarrow{OM} \cdot \overrightarrow{AB} = 0$

例 数学の内容を理解したかったら，例は確実に辿ってみよう。

OA = 2l, OB = l である長方形 OACB において，辺 OA, 辺 BC の中点をそれぞれ M, N とする。

このとき， $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = 0$ ， $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{ON} = 2$ ， $\overrightarrow{OM} \cdot \overrightarrow{ON} = 1$ ， $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{MB} = -2$

例 数学の内容を理解したかったら，例は確実に辿ってみよう。

1 辺の長さが  $l$  である正六角形 ABCDEF において，対角線 AD と BE の交点を O とする。

O はこの正六角形の中心である。三角形 OAB, OBC などは正三角形である。

$\overrightarrow{AB} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{AF} = \vec{b}$  とする。

$\vec{a} = \overrightarrow{OC} = \overrightarrow{ED}$  など

$\vec{b} = \overrightarrow{OE} = \overrightarrow{CD}$  など

$\vec{a} + \vec{b} = \overrightarrow{AO} = \overrightarrow{BC}$  など

$\vec{a} - \vec{b} = \overrightarrow{FB} = \overrightarrow{EC}$  など

$2\vec{a} + \vec{b} = \overrightarrow{AC} = \overrightarrow{FD}$  など

$\vec{a} + 2\vec{b} = \overrightarrow{AE} = \overrightarrow{BD}$  など

$\vec{a} \cdot \vec{b} = -\frac{1}{2}l^2$ ,  $\vec{a} \cdot (\vec{a} + \vec{b}) = \vec{b} \cdot (\vec{a} + \vec{b}) = \frac{1}{2}l^2$ ,

$(\vec{a} + \vec{b}) \cdot (\vec{a} - \vec{b}) = 0$ ,  $(2\vec{a} + \vec{b}) \cdot (\vec{a} + 2\vec{b}) = \frac{3}{2}l^2$

この例は，内積の性質を使わずに，定義だけで辿ることができる。